

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
アップルスポーツ カレッジ	平成5年12月6日	高山 俊彦	〒950-0932 新潟市中央区長潟2-2-8 (電話) 025-286-5191				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 国際総合学園	昭和32年10月10日	理事長 池田 弘	〒951-8065 新潟市中央区東堀通一番町494番地 (電話) 025-210-8565				
目的	現在、精神的豊かさを取り戻すことが求められる我が国の現状を踏まえ、国境や文化・年令を超えてスポーツを楽しむことが推奨されている。こうした国際化・多様化していく生涯スポーツ及び健康の育成におけるスペシャリストの果たす役割はますます大きくなっている。また今後の日本スポーツ界発展の為に、国際化する社会をグローバルに見つめ時代の変化に柔軟に対応できる能力をもつスポーツスペシャリストの育成と、その基盤となる地域スポーツ振興が今まで以上に望まれていることは明らかである。これらから本校は、スポーツ、教育、文化活動を通して、日本スポーツ界の発展並びに、地域、国家社会の発展に寄与することを目的とする。具体的な活動として、競技力の向上を第一に考え、日本トップレベルの選手から技術・理論を学び、日本選手権、全日本実業団といった全日本レベルの試合での優勝・入賞を目指す。また、競技を通じて得た知識や経験を地域スポーツ等などの場で活かすべく、スポーツビジネス分野での知識も学び、スポーツとビジネスの両面から陸上競技全体の活性化をはかれる指導者を育成する。						
分野	課程名	学科名		専門士		高度専門士	
文化・教養	文化・教養専門課程	陸上競技専攻科		平成19年文部科学省告示第20号		-	
修業年限	昼夜	総授業時数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2612	698	1650	144	0	120
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数		兼任教員数		総教員数	
30人	9人	1人		3人		1人	
学期制度	■1学期:4月1日～9月11日 ■2学期:9月14日～1月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 A～Eの評価ではEは単位不認定			
長期休み	■学年始:4月1日～4月9日 ■夏季:8月1日～8月30日 ■冬季:12月26日～1月11日 ■学年末:2月20日～3月31日		卒業・進級条件	進級基準・卒業基準単位は、年間54単位以上の取得が必要			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 個別面談・保護者との連携等		課外活動	■課外活動の種類 部活動 ■サークル活動: 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 プロチーム、フィットネスクラブ、スポーツクラブ、整形外科、接骨院、保育園、幼稚園、老人保健施 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 89%: 100% ■その他 進学者 9名 (平成26年度卒業者に関する平成27年5月1日時点の情報)		主な資格・検定等	・日本体育協会 スポーツリーダー ・健康体力づくり事業財団 健康運動実践指導者 ・日本赤十字社 救急法救急員 ・日本陸上競技連盟公認B級審判員 ・WORD文章処理技能認定試験3級 ・EXCEL表計算技能認定試験3級 ・コミュニケーション検定 初級 ・ホームページ制作能力認定試験 ・POWERPOINTプレゼンテーション検定 ・サービス接遇検定3級 ・ビジネス文章検定3級			
■中途退学者 1名 平成26年4月1日 在学者		■中退率 9% 11名 (平成26年4月1日 入学者を含む)					

中途退学 の現状	平成27年3月31日 在学者 10 名 (平成27年3月31日 卒業者を含む)
	■中途退学の主な理由 病気により、就学ができなくなった。
	■中退防止のための取組 個人面談・保護者連携により就学におけるクオリティを向上させていく。
ホームページ	

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したもとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

学外有識者、企業、業界団体等の意見を基に専門分野の動向、要望を教育課程に取り入れ、実践かつ専門的かつ専門的知識・技術ももった人材育成を実施する。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成27年9月1日現在

名 前	所 属
村山 哲二	ベースボール・チャレンジリーグ
稲田 昌郎	(株)アルス
大橋 亮	(有)オーエスオー (89ベースボールショップ)
田中 義雄	(株)新潟アルビレックスランニングクラブ
池田 拓史	(株)新潟アルビレックス・ベースボールクラブ
長崎 俊也	(社)新潟アルビレックス女子バスケットボールクラブ
早川 貴章	(株)新潟プロバスケットボール
水野 健太郎	新潟モナルカ
高山 俊彦	アップルスポーツカレッジ 学校長
石井 和昭	アップルスポーツカレッジ 副校長
本間 圭一	アップルスポーツカレッジ 教務部長
西海 幸頼	アップルスポーツカレッジ 健康スポーツ科科长
鹿間 宏海	アップルスポーツカレッジ スポーツビジネス・プロチーム運営科科长
佐野 英郎	アップルスポーツカレッジ トレーナー科科长
豊嶋 茂樹	アップルスポーツカレッジ 陸上競技・バスケットボール専攻科科长

(開催日時)

第1回 平成27年9月16日 17:30~18:30

第2回 平成27年9月28日 18:30~19:30

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

企業・業界団体等の意見をもとに専門分野の動向、要望を教育課程に取り入れ、実践かつ専門的な知識・技能を持った人材育成教育を目指し、現場に必要とされる即戦力の人材を育成する。

科目名	科目概要	連携企業等
ジュニア陸上競技 指導論	ゴールデンエイジを中心に、その時期の特徴を学び、対象者に対しての指導法を学ぶ	(株)新潟アルビレックスランニングクラブ

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

企業・業界団体の基礎知識・技術はもちろんの事、最新の業界動向・市場を企業側と学校担当者は密に連携をして、情報収集及び最新の知識・技術を体得していく。学校担当者は業界側と同じ着眼点やレベルで学生指導ができるように努める。また学校側として職員レベルに合わせて計画的に研修を遂行し、人材育成に努める。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成27年9月1日現在

名 前	所 属
内藤 真理子	(株)新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ
植野 翼	(株)新潟アルビレックスランニングクラブ

(学校関係者評価結果の公表方法)

[ホームページ](#)

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL:<http://www.applesports.jp/disclosure.html>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程陸上競技専攻科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			H R I	自己能力や自己啓発を促すための授業	1 年 通 年	60		○			○		○		
○			P C I	W O E D 3 級を取得するための対策授業	1 年 通 年	60			○		○			○	
○			コミュニケーション検定対策	コミュニケーション能力検定初級を取得するための対策授業	1 年 前 期	30		○			○		○		
○			就職実務学	就職活動に向けた対策授業	2 年 前 期	30			○		○		○		
○			H R II	自己能力や自己啓発を促すための授業	2 年 通 年	60		○			○		○		
○			P C II	E X C E L 3 級を取得するための対策授業	2 年 通 年	60			○		○			○	
○			ビジネス検定対策	ビジネス文章・サービス接客検定対策授業	1・2 年 通 年	60		○			○			○	
○			トレーニング科学	メディカルチェックの基礎知識。生活、健康調査法、体力測定機器に関する基礎知識論、体力評価法等	1 前	28		○			○			○	
○			競技者育成システム論	競技者育成と評価、競技者育成システムにおける指導計画、チームマネジメント、競技スポーツとIT	1 前	14		○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級基準・卒業基準単位は、年間54単位以上の修得。成績評価は科目試験、出席状況、授業態度、検定習得状況、ホームワーク状況等の資料によって評価	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程陸上競技専攻科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コーチングⅠ	スポーツ指導の基礎、スポーツ指導の原則、指導形態、スポーツ指導の実際評価の方法とその活用等	1前	12		○			○			○	
○			スポーツ心理学	運動技能の心理的特性、運動と効果、運動と知覚、運動意欲、運動場面と情動、運動指導の心理学等	1後	24		○			○			○	
○			スポーツ医学Ⅰ	スポーツと健康、スポーツ活動中に多いケガや病気、救急処置等	1後	10		○			○			○	
○			スポーツ医学Ⅱ	アスリートの健康管理、内科的疾患と対策、外傷、障害と対策、アスレティックリハビリテーションと計画等	1後	26		○			○			○	
○			スポーツ社会学Ⅰ	社会体育の基本の考え方、スポーツと社会、文化としてのスポーツとその内容、スポーツ集団、組織、商業スポーツ論等	1後	6		○			○			○	
○			スポーツ社会学Ⅱ	社会体育の基本の考え方、スポーツと社会、文化としてのスポーツとその内容、スポーツ集団、組織、商業スポーツ論等	1後	10		○			○			○	
○			スポーツ経営学	スポーツ経営の概念・構造・組織をはじめスポーツ事業の計画と運営・予算と財務管理・法律等	1後	14		○			○			○	
○			スポーツ栄養学	エネルギー源としての栄養素、食物の必要性と食習慣、水分補給とスポーツドリンク、練習プログラと食生活等	1前	12		○			○			○	
○			発育発達論Ⅰ	発達発育期の身体的特徴、心理的特徴、ケガや病気、中高年者とスポーツ、女性とスポーツ、障害とスポーツ等	1前	8		○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級基準・卒業基準単位は、年間54単位以上の修得。成績評価は科目試験、出席状況、授業態度、検定習得状況、ホームワーク状況等の資料によって評価	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程陸上競技専攻科) 平成27年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			トレーニング論	トレーニング理論とその方法、トレーニング計画とその実際、体力テストとその活用、スキルの獲得と獲得課程	1前	6	○			○			○	
○			運動生理学	運動器のしくみと働き、呼吸循環器系の動きとエネルギー供給、スポーツバイオメカニクスの基礎等	2後	14	○			○				○
○			スポーツ行政学	スポーツ経営の概念・構造・組織をはじめスポーツ事業の計画と運営・予算と財務管理・法律等	2後	6	○			○				○
○			発育発達論Ⅱ	発達発育期の身体的特徴、心理的特徴、ケガや病気、中高年者とスポーツ、女性とスポーツ、障害とスポーツ等	2後	10	○			○				○
○			コーチングⅡ	スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任、スポーツと人種、プレーヤーと指導者の望ましい関係等	2前	18	○			○				○
○			陸上競技理論Ⅰ	陸上各種目に対する身体の動きや力点・支点・作用点等を学ぶ	1前				○		○	○		
○			陸上競技理論Ⅱ	陸上各種目に対する身体の動きや力点・支点・作用点等を学ぶ	1後				○		○	○		
○			陸上競技理論Ⅲ	陸上各種目に対する身体の動きや力点・支点・作用点等を学ぶ	2前				○		○	○		
○			陸上競技理論Ⅳ	陸上各種目に対する身体の動きや力点・支点・作用点等を学ぶ	2後				○		○	○		
合計				科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級基準・卒業基準単位は、年間54単位以上の修得。成績評価は科目試験、出席状況、授業態度、検定習得状況、ホームワーク状況等の資料によって評価	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程陸上競技専攻科) 平成27年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			クラブチーム運営論	プロチーム及びクラブチームの運営に関する業務や具体的な業務・講演会集客等の手法を学ぶ。またスクール形態やその指導内容・方法を学ぶ	1前	30		○			○		○		
○			スポーツクラブ運営論	スポーツクラブ及びフィットネスクラブの運営に関する業務や具体的な業務・会員獲得等の手法を学ぶ	1後	30		○			○		○		
○			陸上競技競技論	陸上競技種目全般の理論を学ぶ	1前	30		○			○		○		
○			陸上競技動作分析学	各種目の動作分析を行い、結果を用いて各関節・四肢の動作軌道やパワーの分析し、その後のパフォーマンス向上の為の方法を学ぶ	1前	30				○	○		○		
○			機能解剖学	人間の骨格・筋肉の付き方を学び、動作の理屈を学び、競技パフォーマンスに活かしていく	2前	30		○			○		○		
○			ジュニア陸上競技指導論	ゴールデンエイジを中心に、その時期の特徴を学び、対象者に対する指導法を学ぶ	2前	30		○			○		○		○
○			健康運動理論	健康運動実践指導者資格取得の為、その基礎理論を学ぶ	2前	30		○			○		○		
○			健康運動実践指導者対策	健康運動実践指導者の筆記試験に向けてポイントを理解する	2後	30		○			○		○		
○			陸上競技演習I	陸上競技種目全般の体力及び技術を体得する	1前	180		○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級基準・卒業基準単位は、年間54単位以上の修得。成績評価は科目試験、出席状況、授業態度、検定習得状況、ホームワーク状況等の資料によって評価	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程陸上競技専攻科) 平成27年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択					講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			陸上競技演習Ⅱ	陸上競技種目全般の体力及び技術を体得する	1 後	180		○			○	○		
○			陸上競技演習Ⅲ	陸上競技種目全般の体力及び技術を体得する	2 前	180		○			○	○		
○			陸上競技演習Ⅳ	陸上競技種目全般の体力及び技術を体得する	2 後	180		○			○	○		
○			競技者の身体	陸上競技者の身体の特徴や競技特性を学ぶ	1 前	30		○			○			
○			コンディショニング	陸上パフォーマンスを向上させる為、体力・柔軟性・シンメトリー・体軸・パワー等を体得していく	1 後	30				○		○	○	
○			ウェイトトレーニングⅠ	パフォーマンスUPの為に、筋肉ベースの肥大とパワーを体得していく。	2 前	30				○		○	○	
○			ウェイトトレーニングⅡ	パフォーマンスUPの為に、筋肉ベースの肥大とパワーを体得していく。	2 後	30				○		○	○	
○			健康運動実践指導者実技対策	健康運動実践指導者資格取得の為の実技対策	2 後	30		○			○		○	
○			STEP UP CAMP I・II	業界の一線で活躍している方々より講義を頂き、知識・技術の向上を図る	1・ 2 前	48				○		○	○	
合計				科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級基準・卒業基準単位は、年間54単位以上の修得。成績評価は科目試験、出席状況、授業態度、検定習得状況、ホームワーク状況等の資料によって評価 (留意事項)	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程陸上競技専攻科) 平成27年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			SKILL UP CAMP I・II	業界の一線で活躍している方々より講義を頂き、知識・技術の向上を図る	1・2後	48			○		○			○	
○			STEP研修 I・II	業界の一線で活躍している方々より講義を頂き、知識・技術の向上を図る	1・2前	16			○		○	○			
○			日本救急法・蘇生法	日本赤十字社公認の救急法救急員資格を取得するために、救急時の看護の基本的知識とその技術について学ぶ	1前	16			○	○				○	
合計				科目	2612単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
進級基準・卒業基準単位は、年間54単位以上の修得。成績評価は科目試験、出席状況、授業態度、検定習得状況、ホームワーク状況等の資料によって評価	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。